

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句
令和二年十月度 入選句（投稿総数四千八百八十四句・小中学投句数三千五百四十六句）

特選

かたまつたかまきりと目があいました 大垣市

林 風美照(小四)

選者 高木 恵理

かまきりは、すぐれた聴覚をもつと同時に、視野がとても広いそうです。なんとその視野は、
ほぼ三百六十度。頭の後ろでも、動く獲物を見つけることができます。ところが、かまきりの眼
にうつたのは、大きな人間の姿。人間から見ると、小さなかまきりは、じつとかたまつてしま
うしかなさそうですね。人間とかまきりとの対照が面白い俳句です。

もみじの葉空を見上げて散っていく 加茂郡川辺町森田 留実(中三)

秋の紅葉の代表とも言えるもみじ。真っ赤に染まったもみじの葉は、とても美しいですね。太陽
の光を浴びたもみじは、繊細な輝きを見せます。ところが、そんな美しいもみじの葉も、寒い冬
を前に散る時がきます。「力を振り絞り、空を見上げて最期の命を輝かせる」そんな強さを感じ
させる俳句です。精一杯命を全うするものの美しさを感じます。

あきあかねゆう日のそらをたびしてゐる 大垣市 高橋 凜(小三)

あきあかねは、夏の間は暑さを避けるためか標高の高いところで過ごします。そして、秋になると、
山のかげに降りてきて群れて飛ぶようになります。夕日にそまつたあきあかねは、さらに
輝いて見えることでしょう。ところが、あきあかねの数も最近減少しているようです。あきあか
ねが、いつまでも、日本中を旅できるようにと感じさせる俳句です。

秀逸

秋の山ちようじようついでヤッホーと 大垣市 佐々木 海知(小三)

みのむしがゆらゆらゆれてふらだんす 大垣市 伊藤 蒼徠(小三)

最後まで百物語つづかない 大垣市 清水 きなり(小五)

ホームランもみじの中に飛び込んだ 加茂郡川辺町 加藤 鳳力(中三)

夕焼けに親追いかける鳥の子 加茂郡川辺町 武市 さやか(中三)

よくゆでたとうもろこしにかぶりつく 大垣市 山岸 愛佳(小四)

水面にうつる山々およぐあゆ 大垣市 松浦 優子(小五)

船頭がうなぎを食べて舟下り 大垣市 松岡 煌斗(小四)

ひがん花川のそばにて集合だ 大垣市 林 風美照(小四)

花たばはコスモスがいたんじよう日 大垣市 石田 あかね(小四)

入選

おかあさんいもむしをみてこわがるよ	大垣市	かわい	しろうた(小三)
ことしはねないしよで上がる大花火	大垣市	大橋	心麦(小四)
白鷺の羽広げれば白き雲	大垣市	棚橋	悠亘(小六)
中庭にひらひらとまう秋の蝶	大垣市	箕浦	杏羽(小六)
ピカピカの自転車をこぐ夏の風	大垣市	大橋	葵衣(小六)
エラーして空見上げたら入道雲	大垣市	高橋	幸太郎(小六)
バターでからぶりしては夏終わる	大垣市	大場	碧空(小六)
オクラはねろつかっけいでたねがある	大垣市	野口	照真(小二)
ハロウインはかわいい南瓜あふれてる	加茂郡川辺町	木下	仁唯南(中三)
しちごさん三人そろって写真とる	大垣市	三橋	空歩(小四)

入選

どんぐりのぼうしがあるよだれのかな	大垣市	豊永	直斗(小四)
どんぐりのかわいいぼうしにあってる	大垣市	鹿野	由衣(小四)
みのむしがかぜにのってるゆらゆらと	大垣市	早野	拓磨(小五)
秋の山てっぺんいつてひとやすみ	大垣市	はら	えれな(小五)
一本橋もずといっしよにつなわたり	大垣市	大和田	真瑚(小五)
あさがはんしんまいたべてげんきだす	大垣市	宮坂	隆之介(小五)
くりのいがふまないように気をつける	大垣市	原	志織(小四)
十五夜の空見て食べる夜ごはん	大垣市	小川	姫唯(小四)
ころもがえきれなくなつたふくみつけ	大垣市	島田	ゆい(小四)
もみじさくお寺へいっておまいりだ	大垣市	荻谷	菜歩(小四)

選者吟

この先は分かれ道なり神無月

恵理